



かがやきだより

令和8年2月



2026年2月6日から22日まで、第25回オリンピック

冬季競技大会がイタリア北部の都市ミラノとコルティナ・ダンペッツォで開催されました。イタリアではこれまでに冬季オリンピックが2度開催されており、コルティナ1956冬季大会からは70年ぶり、トリノ2006冬季大会からは20年ぶりの開催で、ミラノでは夏冬通して初めてのオリンピックとなりました。

70年前のコルティナ1956冬季大会は、冬季オリンピックで日本人が初めてメダルを獲得した記念すべき大会でした。アルペンスキー男子回転で銀メダルの猪谷千春選手。その後、日本人メダリストの誕生は1972年の札幌大会まで待つ事となりました。



またマスコミ技術としてのテレビは1950年代に急速に拡大し、本大会は多国籍の視聴者に放送された最初の冬季オリンピックでもありました。



20年前のトリノ2006冬季大会は、フィギュアスケート女子シングルで金メダルを獲得した荒川静香選手の、背中を柔らかくに反らしながら滑る「イナバウアー」が鮮烈に思い出されます。この時の日本のメダル獲得数は、この金メダル1個でした。

また大会史上初めて携帯電話で視聴できるライブ映像配信が行われ、5大陸の18カ国でサービスが展開されました。モンゴルとアゼルバイジャンでは、初めて全競技のテレビ視聴が可能になり、インターネットで結果を調べるファンも増えました。



今大会、8競技116種目が実施され、冬季競技のアスリートたちが熱戦を繰り広げました。日本勢が獲得したメダルは計24個（金5個、銀7個、銅12個）で冬季五輪で過去最多を更新しました。金メダル1個だった2006トリノ五輪から20年。練習環境の充実や競技団体のバックアップ、適切な指導で実力を伸ばした選手たちが、同じイタリアの地で最大限のパフォーマンスを発揮し、大きな花を咲かせました。競技種目が増え、選手の技術・表現力、映像や配信技術など素晴らしい進歩を感じます。応援の仕方も人それぞれ様々で、日本人選手がメダルを獲得するたびに日本中が湧きました。



冬季オリンピックと合わせて思い浮かぶのはウクライナ紛争です。4年前、北京2022冬季大会が2月20日に閉会。直後の2月24日に、ロシア連邦はウクライナに軍事侵攻し未だ続いています。ロシアは国家としてのオリンピック参加を禁じられ、厳しい審査を通過した僅かな選手が、ベラルーシ勢と共に「個人の中立選手（AIN）」として出場するにとどまっています。

「平和の祭典」と呼ばれるオリンピック…ウクライナ紛争だけでなく世界各地で起る戦争の早期終結を願ってやみません。

令和8年2月・3月の予定



理容：2月9日(月)、3月16日(月)
2月4日(水) 節分行事
2月18日(水) 誕生日会



美容：2月16日(月)、3月23日(月)
3月3日(火) ひな祭り会
3月19日(木) 14:00～ 運営推進会議
2階理学療法室にて



令和8年2月25日